

「とちぎの星」が選ばれる理由



山下 治男 氏
★★★★★
五ツ星
お米マイスター

粒揃いが見事で、冷めてから真価を出す「とちぎの星」の独特な米の旨味は、豊かな滋味で食材をアシストし、炊飯が「米の出汁とり」だと教えてくれます。とちぎの星は、伸び続ける橋のように、お米の食文化を未来に繋げ、美味しいを守る、そんな壮大なことを体感させてくれるお米です。



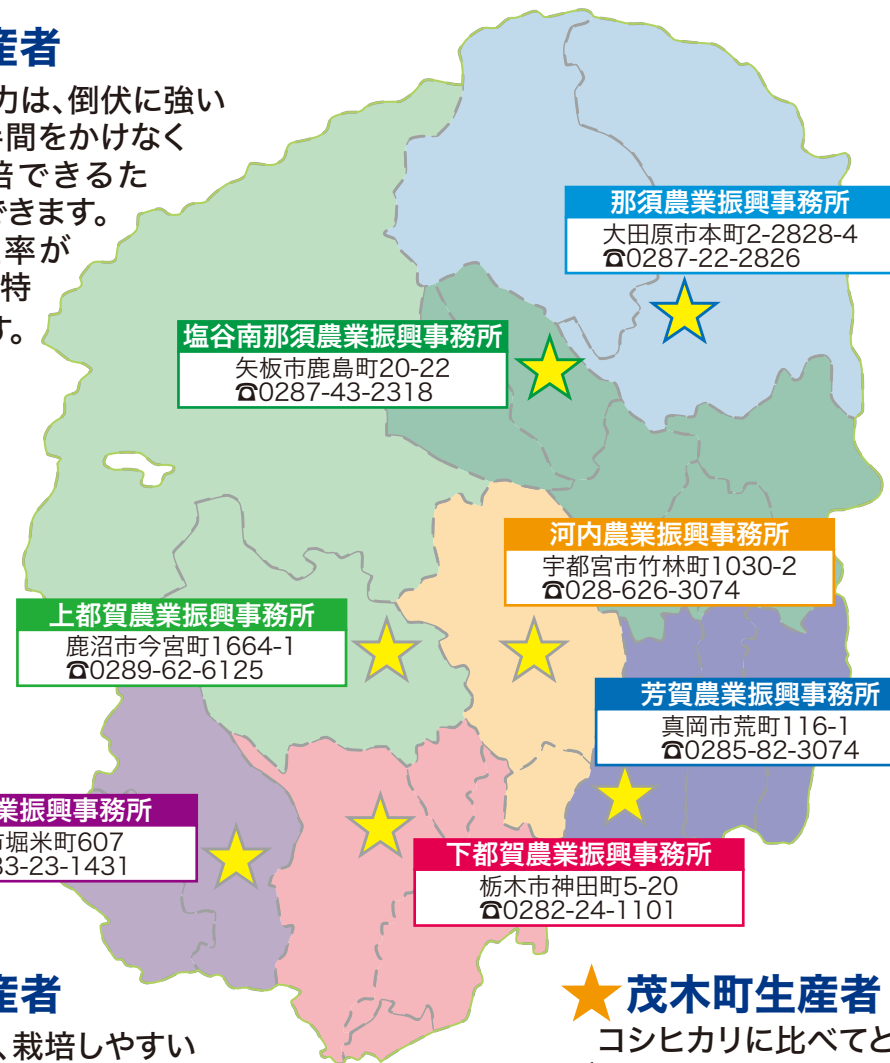
澁谷 梨絵 氏
★★★★★
五ツ星
お米マイスター

とちぎの星は、とにかくリピート率の高いお米です!! 食べた方がファンになり、また買いたくなるお米です。理由は、他の品種にはないパリッ、プリッ、モチッとした食感と粒の美しさ、炊き映えのする見た目にあります。高温に強い未来型の品種は、実需でも愛されるお米になっています。

「とちぎの星」の栽培技術に関するお問い合わせは最寄りの農業振興事務所へ

★真岡市生産者

とちぎの星の魅力は、倒伏に強いことです。過度な手間をかけなくても安定して栽培できるため、安心して管理できます。また、大粒で整粒率が高いことも大きな特長だと感じています。



とちぎの星PR動画はこちら!



令和8年度は県内7地点でスター☆フィールド(「とちぎの星」展示ほ)を設置してまよ～



★真岡市生産者

味の評価が高く、栽培しやすい品種です。最近の高温条件下でも、コシヒカリよりとちぎの星の方が品質良く収穫できています。

★茂木町生産者

コシヒカリに比べてとちぎの星は栽培管理がしやすい品種です。これまで作付けしてきた品種の中でも、安定して高い収量が得られるため、最も作りやすい品種だと感じています。

※令和7年度産地研究会の取組から

とちぎの星 品質向上栽培マニュアル (第3版)



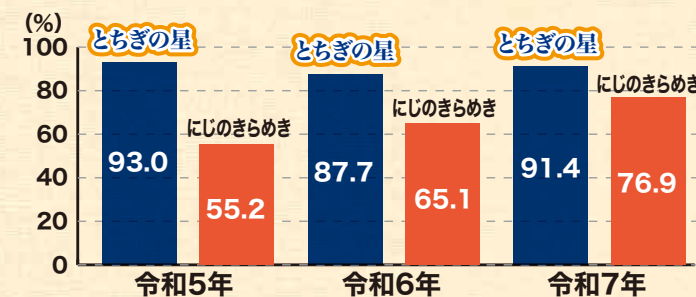
品種特性

- コシヒカリより出穂期は4日、成熟期は7日遅い。
- 縞葉枯病に抵抗性がある。
- 外観品質が優れ、粒が大きい。
- コシヒカリより多収である。
- 耐倒伏性はあさひの夢より弱いが、コシヒカリより強い。

魅力その①：高温耐性

高温登熟性に優れ、近年の高温条件下でも安定して高い1等米比率を誇ります!

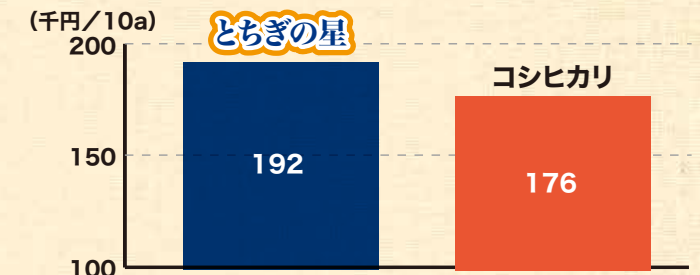
1等米比率の推移



魅力その②：安定した収益性

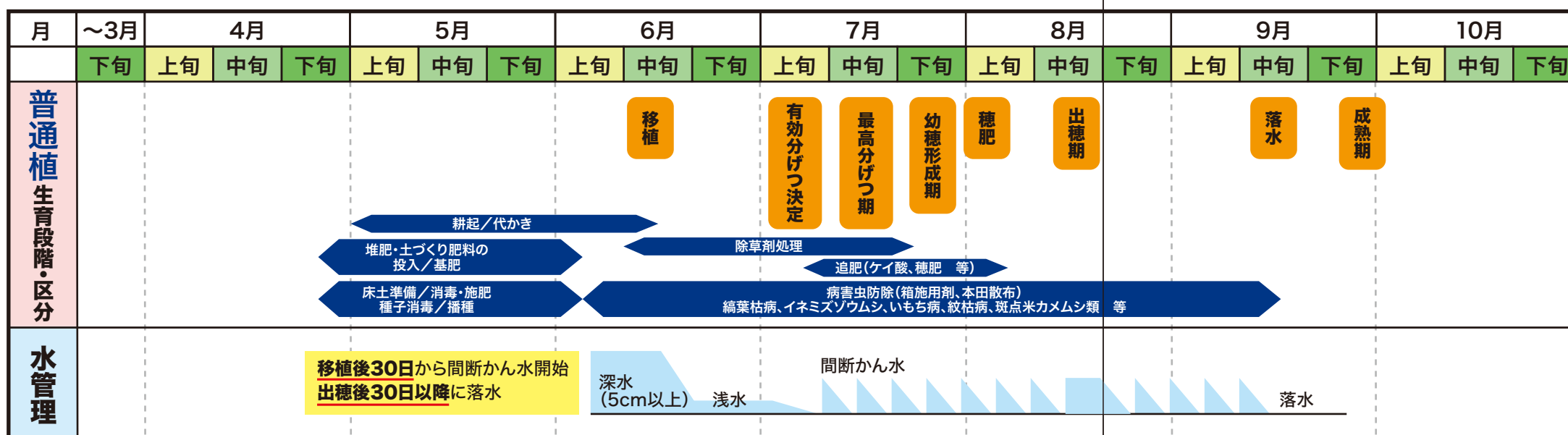
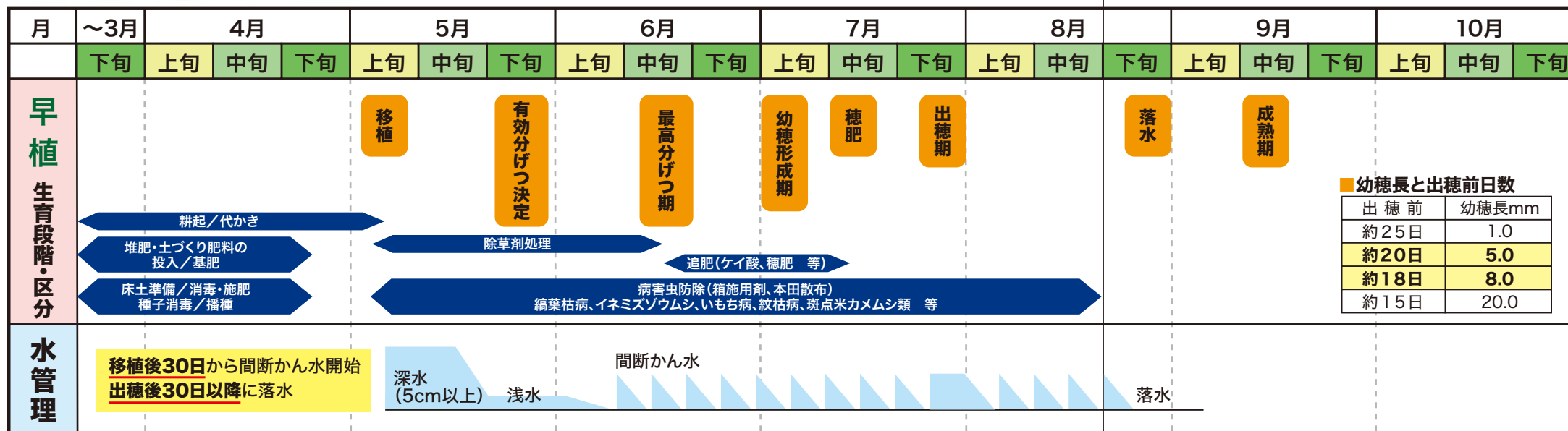
減肥しても十分な収量を確保できるため、10aあたりの収入がコシヒカリと同等か増益が期待できます!

収益性



とちぎの星 栽培暦

適切な土づくりと水管理により
 ①玄米タンパク質含有率 **6.5%以下**
 ②農産物検査 **1等** 相当の米づくりを目指しましょう!!



栽培のポイント

1.床土準備

- 購入した培土を1箱当たり5～6ℓ
- 床土消毒剤(タチガレエースM液剤等)を必ず使用する。

2.育苗

- 確実な発芽と異品種の混入や病害の持ち込みを防止し健苗の育成を図るため、毎年種子更新を実施する。
- 播種量:乾籾130～150g/箱
- ハウス管理は、高温になる前に換気を行う。過かん水に注意する。

3.移植

- 栽植密度:18～22株/m²(60～70株/坪)
- 極端な疎植は二次枝梗の増加により品質低下につながる。
- 1株あたり3～5本植

4.水管理

- 移植後は水深を4～5cmに保ち、活着を促進する。
- 夜間かん水、日中止水を基本とする。
- 有効茎確保後は間断かん水を基本に、生育診断を行い中干しの程度を決定する。
- 出穂後の異常高温時には、夜間かん水により地温の低下、根の活力維持を図る。

5.病害虫防除

- ほ場をよく観察し、斑点米カメムシ類を発見した場合は、①乳熟初期(出穂期7～10日後)＋②1回目散布後7～10日を実施する。
- ただし、イネカメムシ発生またはクモヘリカメムシ多発生の場合は、不稔防止のため出穂期の薬剤防除を行う。
※農薬ラベルの表示を確認の上、適正に使用する。

6.雑草防除

- 水稻除草剤(散布後7日間)は、薬剤成分の流出を防止し、効果を安定させるため、田んぼの水を外に出さない。

7.収穫・乾燥・調製

- 収穫適期は、帯緑色籾率で10～3%。
- 登熟積算気温1,200～1,300℃。
- 胴割防止のため急激な乾燥を避け(毎時乾減率0.8%以下)、適正水分を確保する。



おいしい「とちぎの星」づくりには
土づくり&施肥設計が大切!!

品質向上資材(けい酸質肥料)

- 健全な稲体を形成することで、病害虫に対する抵抗性を強め、倒伏に強くなる効果がある他、以下の効果が期待されます

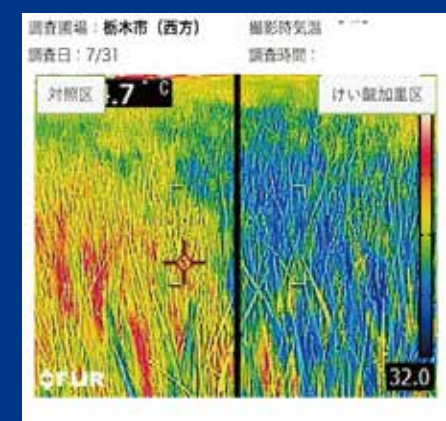
期待される効果

- ①適正なタンパク質含有率にする効果
- ②高温により発生する乳白粒抑制効果
- ③稲体の温度を下げる効果

- ①適正なタンパク質含有率にする効果
→展示ほ7地点中6地点で、けい酸質肥料の施用によりタンパク質含有率が低下した

- ②高温により発生する乳白粒抑制効果
→展示ほ7地点中4地点で、けい酸質肥料の施用により乳白粒発生率が低下した

- ③稲体の温度を下げる効果
→県内5カ所(コシヒカリ)で行った試験の結果、けい酸質肥料の施用により稲体の温度が下がり、白未熟粒発生が抑制され、整粒率が1割程度高くなった
※R7年度全農とちぎ肥料農薬課「ケイ酸実証圃」の実績より



〈例〉基肥で施用する場合

- ・ケイカル :40～100kg/10a
- ・けい酸加里 :20kg/10a
- ・どかいーね :30～150kg/10a

〈例〉追肥で施用する場合(目安時期:出穂40日前)

- ・ケイカル :10～30kg/10a
- ・けい酸加里 :60kg/10a

※R7年度「とちぎの星」品質向上展示ほの実績より

施肥体系(基肥一発)

- 地力や土壌診断に基づき、施肥設計を行いましょう!
- 移植時期が遅くなると倒伏等により品質低下につながるため、基肥窒素を減肥しましょう!

- 〈例〉・BBとちぎの星専用プレミアム :40～53kg/10a
- ・BBとちぎの星専用ひとふりくん :40～53kg/10a
- ・BB側条とちぎの星専用ひとふりくん:30～43kg/10a

施肥体系(分施)

- 基肥窒素4～5kg/10aと出穂前20～18日の穂肥2～3kg/10aを基本とし、適正な生育量を確保し、登熟・食味向上を図りましょう!